

選挙出前授業モデル作成事業

事業の概要

- 主権者として選挙や政治に参加するようになるためには、民主主義社会や選挙の意義について、自ら考え、話し合うことが求められている
- 全国で活動する若者啓発グループが自ら選挙出前授業を実施するためのツールを構築する必要がある
- 「若者選挙ネットワーク」メンバーの参画及び「岐阜大学教育学部附属中学校」・「愛知教育大学附属岡崎中学校」における授業の実践を通して、実践型の授業モデルを作成

出前授業モデルの特徴と概要

- 授業モデルに「授業の進め方や留意点」や「時間配分」を掲載することで、授業を行いやすいよう配慮！

モデルA：社会問題を通じてメディアについて考えよう！

【目標】 社会や政治に対してのイメージを見つめ直し、メディアを通して情報を獲得する流れを認識する

【対象】 中学3年生
(※他の学年に対しても可)

【内容】 社会や政治についての情報はメディアを介して獲得することから、メディアリテラシーの要素を含んだ内容



モデルB：選挙によって作られる社会について探求しよう！

【目標】 「選挙と社会」について皆で問い、話し、考えることを通して、「選挙と社会」について探求する

【対象】 中学3年生

【内容】 **P4C (子どものための哲学)** という対話手法を用いて、生徒同士がコミュニケーションを図りながら、「選挙と社会」について考えるもの



事業の効果、今後の展開など

- 主権者教育の重要性の高まりにより出前授業の要望が増加した結果、人員不足等の理由で選管職員だけでは対応しきれない状況があるなかで、当選挙出前授業モデルを活用し、出前授業を**若者啓発グループが補助、代行**することで、主権者教育の更なる促進を図ることが可能となる。
- また、若者啓発グループのメンバーが選挙出前授業を実施することで、授業を受ける側と教える側の双方の学びに資することが期待できる。